巻　頭　言

九州地区大学体育連合会長　**根　上　　優**

平成19年12月５日，私は，就学前の子どもに教育と保育を一体的に施す社会福祉法人立「よいこのもり保育園」の案内で，当園が４，５歳児を対象に行っている３泊４日の冬季キャンプを視察するために，霧島山麓の標高500メートルに位置する，ひなもり台キャンプ場を訪れた。生憎この日は，その年一番の寒波の訪れで，キャンプ場一帯はみぞれ交じりの悪天候に見舞われた。気温も５度以下と，時折吹く強風で，体感温度は氷点下に達していた。この時期，幼児がキャンプをするには“過酷”とも思える気象条件の中を，正午過ぎ，一行を乗せたバスが到着した。ここから３日間，私の子どもに向ける眼差しと，その背後にある常識的知識を根底から覆すような情景が次々と立ち現れてくることになる。

ところで，当園の教育と保育の目標は「薄着で過ごす」「身体機能の向上」「自然体験学習」「生活習慣の確立」であり，日頃から，生きる基盤を身に付けさせるためにバライティ豊かなカリキュラムを用意していることで定評があった。冬季キャンプは，そうした教育・保育の“総仕上げ”ともいうべき狙いをもっていた。

キャンプを通して最初に驚いたのは，厳しい寒気に曝されながら，子どもたちが早朝から短パンとシャツ１枚の薄着で過ごし，食事は３食すべて飯盒炊飯で賄っていたことである。“おねしょ”や“喘息の発作”を心配して参加を逡巡する親もいたが，その心配は杞憂に終わったのである。しかし，それ以上に驚いたのは，子どもたちが連日，自作の梅干しおにぎりを携え，標高1000メートルを越える霧島の峰や周辺の山道を駆けめぐっていたことである。勿論，至る所にブッシュが顔を出す急勾配の山道を登るため，転倒の際に手のひらや肘，足に擦り傷を負い，痛みで泣き出す子どもが続出していた。それでも皆，けがの痛みや苦しみに耐え，厳しい試練を乗り越えた後には，清々しい表情を見せていた。キャンプの後１ヶ月以上，子どもたちの生活習慣の改善を追跡調査してきたが，驚いたことに皆，早寝早起きと，“米”中心の食生活へと劇的に変化していたのである。

園の先生方は皆さん「子どもは寒ければ運動します。運動させるには寒気に触れさせるのが一番です」と言われるが，とにかく子どもたちはよく走り，よく遊んでいた。自然の不思議に素直に驚き，目にするものすべてを戯れの対象とし，都市の空間では決して表すことのない，ブリューゲルの『子どもの遊び』を想起させるような情景を醸し出していた。和辻哲郎はその著『風土』の中で「外に出て寒さを感ずるとき，そこに己を見出す」と述べているが，それはまさに，日本人が古くから伝承してきた生活の知恵すなわち風土的現象である。よいこのもり保育園は，子どもたちの遊びと運動を宮崎の風土と結びつけて実践してきたのであり，このことを私に伝えたかったのである。残念なことに，そうした風土的現象を保健体育の理論の外部へと排除してきた歴史をもつ私たちには今，先生方の意欲的な試みを理論的に補強する力を持ち合わせていない。

それにしても，若者は一体，いつ頃から走らなくなるのであろうか。この問いに答えるには，幼児期から青年期の社会化に伴う膨大な価値付加過程を検証することが必要である。しかし，この20年余り「運動の楽しさを味わうことにより生涯スポーツの基礎を培うことができる」という「楽しい体育」の「体育のための体育の実践」の言説に掻き消されて，すっかり解明の機会を喪ってきた。勿論，「楽しさ」は運動の一要素であり，その教育的意義まで否定するものではないが，それが「楽しい体育」として全体化した瞬間，目的と手段の転倒が生じ，そこに大学体育の不幸が帰結したことは紛れもない事実である。「無理をしなくても良いのよ」「頑張らなくて良いのよ」という“心地よい”イデオロギー的言説に踊らされた結果が「体力の低下」であるとしたら，あまりにも悲しい。その中にあって唯一，鹿児島市立松原小学校が百年に亘って続けている「鹿児島湾横断4.2km 遠泳」のニュースは，まさに快挙であった。

目　　次

巻　頭　言 …… 根上　　優（九州地区大学体育連合会長） 1

Ⅰ．教育研究論文

1．研究資料　「健康科学実習」における救急法（心肺蘇生法）導入に対する学生の評価
…… 石原　一成（福岡県立大学人間社会学部）
上田　　毅（福岡県立大学人間社会学部） 5

2．実践研究　インドネシアにおける障害児体育の現状と教育協力支援
…… 柿山　哲治（活水女子大学）
Djadja Rahardja, Juhanaini（インドネシア教育大学）
Lalan Erlani（ジャカルタ大学）
中田　英雄（筑波大学） 12

Ⅱ．体育・スポーツ教育

1．提　　言　大学における保健体育教員の倫理 …… 徳永　幹雄（第一福祉大学） 19

2．特別講演　関東の大学におけるスポーツ教育の新たな展開
…… 沼澤　秀雄（立教大学） 21

3．招待講演　アリゾナ州立大学における体育，スポーツ事情
…… Miya Kato Rand, Ph.D.（Arizona State University, USA） 26

4．シンポジウム　今，大学体育に求められるもの ── 社会・大学・学生の視点 ──
…… 福本　敏雄（コーディネーター　佐賀大学） 29

1）シンポジウムを振り返る
…… 福本　敏雄（佐賀大学） 30

2）科研費企画調査のデータから
── 日常生活への般化を目指した水中運動授業の試み ──　…… 正野　知基（九州保健福祉大学） 31

3）大学職員の視点から …… 宝来　　隆（久留米大学御井学舎事務部教務課） 34

4）学生の視点から …… 淵田　吉男（九州大学高等教育開発推進センター） 36

5．研究発表

1）大学生に対する生活習慣病予防の一次予防指導について
～体力と身体活動水準に関する疫学的知見～ …… 山崎　先也（第一福祉大学） 38

2）健康科学を導入した体育実技の選択理由と授業評価について
…… 角南　良幸（福岡女学院大学）
大隈　節子（福岡女学院大学非常勤講師） 40

３）体育・スポーツ系大学教育に求められるもの
── 社会が求める人材育成に向けて ── …… 伊藤　友記（九州共立大学）44

４）「生活の体育化」の実践をめざした体育・健康科学理論
── ５つの体育手段に着目して ── …… 飯干　　明（鹿児島大学）48

５）体育授業の三元論的・相互干渉モデルの構築をめざして
…… 根上　　優（宮崎大学）52

Ⅲ．体育・スポーツ事情

１．海外だより ── ヨーロッパ・スポーツ科学学会（ECSS）に参加して ──
…… 角南　良幸（福岡女学院大学）57

２．大学めぐり ── 九州工業大学 ── …… 磯貝　浩久（九州工業大学）59

３．九州地区大学体育連合研修会
１）「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春季研修会の概要 …… 61

２）平成18年度　春期　体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議に参加して
…… 熊野　晃三（長崎純心大学）62

３）春期研修会を終えて …… 近藤　芳昭（西九州大学）64

Ⅳ．事務局報告

平成17年度　事業報告 …… 65
平成18年度　事業報告 …… 71
平成18年度　九州地区大学体育連合収支決算書 …… 79
平成19年度　九州地区大学体育連合予算・補正予算 …… 80
平成19年度　事業計画 …… 81
九州地区大学体育連合規約 …… 82
九州地区大学体育連合研究助成規定・研究助成施行細則 …… 83
「体育・スポーツ教育研究」の投稿原稿募集について …… 84
九州地区大学体育連合役員 …… 85
九州地区大学体育連合加盟校・個人会員 …… 86
平成18年度　賛助会員一覧 …… 87
平成19年度　賛助会員一覧 …… 87